

J. F. OBERLIN

桜美林大学

環境報告書



目次

桜美林大学のエコキャンパスに向けた現状と取組

桜美林大学エコマップ2017 3
 桜美林大学町田キャンパスの植物 5
 INPUT(資源の消費)とOUTOPUT(環境への排出) 7
 町田キャンパスのごみ分別 9



桜美林大学での環境の学び

ECO-TOPプログラム 11
 サービスラーニング 13
 国際協力フィールドワーク 14
 桜美林大学のゼミ 15
 桜美林大学のサークル 16



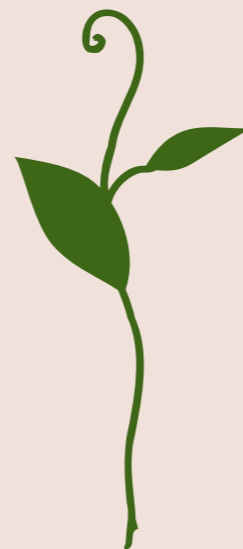
環境報告書を読んで 17
 防災MAP 19
 社会貢献 21
 編集後記 22

桜美林大学の概要・環境報告書基礎的事項
環境報告書について

- 環境報告書の目的：桜美林大学の環境保全に関する取組を在学生、教職員、桜美林学園と関わりのある全ての方々に報告するものです。
- 報告対象組織：桜美林大学のうち町田キャンパス
- 報告対象期間：2017年度の環境負荷データや環境保全活動を対象としています。発行は2018年度のため「2018年度版」としました。
- 製作・編集：桜美林大学環境研究所が桜美林学園施設・管理部ほか関係部署の協力を得て製作しました。公募による5名の学生が編集委員・執筆補佐として参加しました。学生主体の活動や社会貢献活動は、学生編集委員が情報を収集し、インタビューを依頼して受諾いただいたもの等を掲載しています。したがって、桜美林大学の全ての活動を網羅しているわけではありません。

学生数		教員数		職員数	
学群・学部	9,234	専任	262	専任	140
大学院	339	非常勤	596	非常勤	116
合計	9573	合計	858	合計	256

(2018年5月1日現在)



学長ご挨拶



環境に深く配慮した真のエコ・キャンパスの創造に向けて、学生・教職員が一丸となった取り組みを。

2018年度版桜美林大学環境報告書を発行いたします。本環境報告書では、2017年度の本学のエコ・キャンパスの現状や大学・学生の取組をご紹介します。

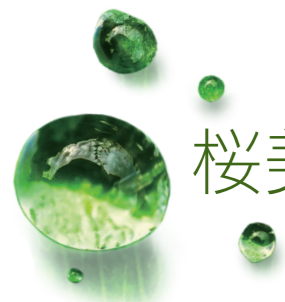
2017年度には、大学全体でごみの分別方法を変更して、より適切なおみ分別が行われるように改めました。2017年4月から、町田キャンパスとプラネット淵野辺キャンパスで完全実施しており、新たに設置した5連または6連のごみ箱によって、誰でも容易に分別を実施できるようになっています。2017年度はまだ実施初年度ということもあり、目に見える数値面での大きな変化には至っていませんが、ごみ回収を担っていただいている会社への受け渡しがスムーズになった点は、改善の成果といえると思います。学生や教職員がごみを正しく分別することを通じて、環境への意識を高めることができれば、地球温暖化に代表されるさまざまな環境問題に対して、真のエコ・キャンパスを創造し、環境負荷を低減していけるものと考えております。

大学全体としては、キャンパスの移転等の動きがまだ進行中であることから、環境負荷の大幅な削減をすぐに実現することは難しい面もありますが、今後も真のエコ・キャンパスを目指して取り組んでまいり所存です。

エコ・キャンパスの推進及び環境報告書の作成にあたり、本学の片谷孝教授、藤倉まなみ教授の専門的な指導のもと、本年度も、学内公募に応募した大学生が編集に参加し、学生による手作りの環境報告書を目指しました。夏休み中のオープンキャンパスでは、学生編集委員がさまざまな取り組みを紹介するなど、対外的なアピール活動も実践しました。

この環境報告書を通じて、学内の学生や教職員はもとより、本学が日頃よりお世話になっている学外の関係機関の皆様や市民の皆様に、本学の取り組みをご理解いただけることを願っております。

桜美林大学 学長 畑山 浩昭



桜美林大学のエコキャンパスに向けた現状と取組

桜美林大学 エコマップ 2018

4 明々館・太平館・碩学会館・理化学館・更賜体育館・待望館・けやきの広場・三角駐輪場・桜グラウンド・クラブハウスF棟などの主要な外灯

8 LED照明

LED(発光ダイオード)照明は発光効率が良く(少ない電気で明るい)、長寿命なため、省エネに加え、省資源・廃棄物の発生抑制の点からも優れています。東日本大震災後、さらに導入を進めています。



9 荊冠堂・理化学館
雨水利用

雨水を貯めてトイレの洗浄水、消火栓として利用しています。(雨水が不足する時は水道水が供給されます。) 節水になります。



学園全エリア
樹木札

学内の71種の樹木に約150枚の樹木札が付けられています。



4 明々館・太平館・崇貞館
地下水利用システム

普段はトイレ、雑用水(掃除用等)として使用しています。適切な地下水利用は節水になるほか、地震等の災害時の水源になります。

10 理化学館
地中熱利用

地中は年間を通して一定温度である(夏は涼しく、冬は暖かい)ことを利用して、1階の空調機の外気取り入れパイプを地中に埋設し、省エネを向上させています。



10 理化学館
大気環境ステーション

理化学館屋上では、気象のほか、窒素酸化物(NOx)などの大気汚染物質濃度を24時間連続測定しています。



3 学而館・理化学館
吹き抜け循環システム

学而館と理化学館では、1階と上階の温度差を利用して、冷暖房時に吹き抜け空間の空気循環を行うことにより空調を効率化しています。



1 スクールバス発着所
ハイブリッドバス

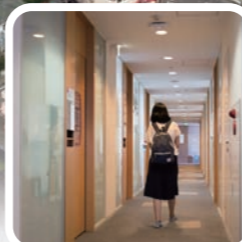
ディーゼルエンジンと電池・モーターを組み合わせた「ハイブリッドバス」。従来のバスに比べて大気汚染物質の排出が少なく低燃費なエコカーです。現在、3台導入されています。



学内ほぼ全ての建物のトイレ、徳望館・崇貞館の廊下、学而館・明々館・碩学会館・理化学館の階段

人感センサー

人の存在を感知する人感センサーとタイマーで、照明のオン・オフや調光をしています。



2 一粒館
太陽光発電

太陽光で発電した電気は一粒館の電気系統で利用しています。



6 崇貞館
生ゴミ処理機

崇貞館裏には生ごみ処理機があり、桜カフェなどからの調理くずを土壌改良材にしています。できた土壌改良材は、けやきの広場の花壇や桜美林中学で利用しているほか、近隣の方にもお配りしています。



3 学而館・明々館・理化学館
屋上緑化

学而館・明々館・理化学館では、屋上を緑化しています。屋上緑化は気温を下げる(ヒートアイランド対策)、建物の断熱性の向上(省エネ)、都市の保水力の増加、大気汚染物質の吸収・吸着、生態系の回復などの効果があります。



5 太平館トイレ
節水・省エネ型トイレ

夜間や休日に便座と温水のヒーターを自動的に切るオフタイム節電により省エネし、陶器表面と水流の工夫により大幅に節水するトイレを順次導入しています。



学内全トイレ
学内の紙をリサイクルしたトイレトーパー

機密書類など、学内でリサイクル用に回収された紙は、製紙会社でトイレトーパーになり、また桜美林大学に戻ってきます。その量は、年間、100~150ロールになります。



2 一粒館
3 学而館・明々館・崇貞館・栄光館・理化学館・サレンバーガー館
7 一階館
10 理化学館
11 理化学館
ガスヒートポンプ、エコアイス

ヒートポンプは、投入したエネルギー以上の熱エネルギーを利用できるとも省エネ性能に優れた冷暖房機器で、オゾン層を破壊しない冷媒を使用しています。学而館のヒートポンプは、夜間電力で氷を作り昼間の冷房に利用することでピーク時の電力消費を下げる氷蓄熱式で、エコ・アイスグリーンラベル認定品です。



【桜美林大学植物目録】

この植物目録には、町田キャンパス内に野生状態で生える在来や帰化の植物と植栽された樹木・多年草のうち、植物標本を作製した種を載せた。科の配列は米倉浩司（2012）に従い、科内の種の配列は和名の五十音順にした。リストには、和名のほか、標本番号、町田キャンパス内での採集場所を記した。複数の標本が採集されている場合は、セミコロんで区切って、標本番号と採集場所を記した。和名の前の星印は植栽を意味し、矢印は帰化を意味する。

標本は、教員である木場英久、伴野英雄のほか、専攻演習・生物学実験II・学芸員課程の学内実習の履修生が採集している。すべての標本は桜美林大学の植物標本庫に収蔵されている。

トクサ科	スギナ No. 1086 南斜面; No. 2150 明々館の東
マツバラ科	マツバラ No. 3924 同窓会の西
ゼンマイ科	ゼンマイ No. 2249 一粒館の西
カニクサ科	カニクサ No. 2786 研究棟A棟の西
コバノシカガマ科	フモトシダ No. 3199 栄光館の西
	ウラボシ No. 3195 桜グラウンドの南
イノモトソウ科	イノモトソウ No. 2943 櫻の広場
	オオバノイノモトソウ No. 2965 栄光館の西
→	ホウライシダ No. 2791 赤説館の西
ヒメシダ科	ゲシゲシシダ No. 2964 栄光館の西
	ヒメシダ No. 3647 桜寮の東門の外
	ミソシダ No. 2925 研究棟D棟の東
コウヤワラビ科	コウヤワラビ No. 2821; No. 3932 又賜体育館の北
メシダ科	イヌワラビ No. 1685 赤説館と碩学館の間; No. 1686 同窓会の東
	シケシダ No. 3231 桜グラウンドの東
オシダ科	オクマワラビ No. 3318 桜美林高校の東
	ナガバヤブソテツ No. 2699 栄光館の西; No. 4116 理学館の西
ウラボシ科	ノキシノブ No. 2243 サレンバーガー館の西
ソテツ科	ソテツ No. 2419 以徳館の東
マツ科	ウラボシモミ No. 2945; No. 2970 以徳館の南
	カラマツ No. 2427 テニスコート of the 北
	クロマツ No. 2273 以徳館の東
	ゴヨウマツ No. 2932 徳望館の北東
	ドイトウヒ No. 2927 研究棟D棟の南
	ヒマラヤスギ No. 336 赤説館の南
	レバノンスギ No. 2912 荊冠堂の南
ヒノキ科	カイツカイブキ No. 2899 サレンバーガー館の北
	コノテガシワ No. 2481 一粒館の北
	サワラ No. 2910 一粒館の南
	ニオイヒバ No. 2962 更賜体育館の南
	ニッコウヒバ No. 2933 碩学館の北
	ハイビャクシン No. 2904 太平館の西
	ヒヨクヒバ No. 2911 更賜体育館の西
	メタセコイア No. 2823 研究棟A棟の西
	キヤロバク No. 2782 テニスコート of the 北
イチイ科	シキミ No. 2247 メディア棟の南
マツバサ科	ドクダミ No. 2366 赤説館北
トクダミ科	コシコシ No. 2170 崇貞館の南
モクレン科	シモクレン No. 2963; No. 3526 更賜体育館の南
	ハクモクレン No. 3029 学而館の南
クスノキ科	クスノキ No. 2364 図書館の北
	グツケイジュ No. 2266 図書館の北
センリョウ科	センリョウ No. 341 崇貞館の南
サトイモ科	カラスビシャク No. 2259 赤説館の南
ヤマノイモ科	オオドコロ No. 342 更賜体育館の南
	ヤマノイモ No. 362 櫻の広場
サルトリイバラ科	サルトリイバラ No. 2900 サレンバーガー館の北
	シヨデ No. 3333 ゴルフ練習場と南斜面の間
ユリ科	→ シンテップウユリ No. 2697 徳望館の北
	☆ ホトケシザ No. 2942 碩学館の東
ラン科	ギンラン No. 1687 其中館の西
	☆ シラン No. 2357 サレンバーガー館の南
	ネジバナ No. 2420 以徳館の南
アヤメ科	→ ニフセキショウ No. 224 櫻の広場; No. 3539 栄光館の南
	→ ヒメヒオウギスイセン No. 2659 研究棟A棟の東
ススキノキ科	ヤブカンゾウ No. 3260 桜グラウンドの東
ヒガンバナ科	☆ アガビサス No. 2596 赤説館の南
	☆ スイセン No. 2151 栄光館の南
	→ ニラ No. 2824 研究棟A棟の東
	ノビル No. 238 櫻の広場
	→ ハナニラ No. 3028 栄光館の南
	ヒガンバナ No. 2819 南斜面の南
キジカクシ科	☆ アツバキミガヨラン No. 2354 赤説館の東
	→ オランダキジカクシ No. 2358 桜グラウンドの東
	ジャノヒゲ No. 2888 南斜面
	ツルボ No. 389 赤説館北の駐輪場
	☆ ドラセナの一種 No. 2922 学而館の南
	☆ ナギイカダ No. 2913 栄光館の西
	☆ ハラン No. 2940 更賜体育館の西
	→ ホンバオアオマナ No. 2267 学而館の南
	☆ ヤブラン No. 2700 学而館の南
	☆ シュロ No. 2345 図書館の北
ヤシ科	ツクサ No. 2651 南斜面の南
ツクサ科	☆ ムラサキツクサ No. 351 櫻の広場
	ヤブミヨウガ No. 2660 太平館の西
イグサ科	クサイ No. 222; No. 236 櫻の広場
	スズメノヤリ No. 2187 テニスコート of the 東
カヤツリグサ科	アオスゲ No. 179 更賜体育館の南; No. 3543 栄光館の南
	カヤツリグサ No. 732 南斜面
	コゴメガヤツリ No. 359 櫻の広場
	シラスゲ No. 935 一粒館と学而館の間
	チャガヤツリ No. 2886 南斜面
	ハマスゲ No. 4407 其中館の東
	ヒメクグ No. 396 櫻の広場; No. 2897 荊冠堂の北
	ヒメヒラテンツキ No. 733 南斜面
	マスカサ No. 734 南斜面; No. 1791 学而館の東
イネ科	アオカモジグサ No. 2368 徳望館の西
	アキエノコログサ No. 123 南斜面; No. 400 待望館の南
	アキメヒシバ No. 116; No. 358 其中館の東
	アシボン No. 110 メディア棟の東
	アズマネザサ No. 214 更賜体育館の南
→	アメリカスズメノヒエ No. 1413 ハンドボールコート
	イヌアワ No. 3536 桜グラウンドの南
	イヌヒエ No. 2292 フットサル場
→	イヌムギ No. 83; No. 105 南斜面

	ウシクサ No. 1466 南斜面
	エノコログサ No. 348 櫻の広場; No. 1225 フットサル場; No. 1691 学而館の東
	オオウシノゲサ No. 473 崇貞館の南; No. 938 学而館の北
	オオエノコロ No. 980 理学館の東; No. 1683 其中館の西
→	オオクサキビ No. 2780 理学館の北
	→ オオスズメノカタビラ No. 221 櫻の広場
	オギ No. 2924 桜グラウンドの東
→	オニウシノゲサ No. 1698 フットサル場
	オヒシバ No. 356 其中館の東
	カゼクサ No. 1464 ハンドボールコート
	カニツリグサ No. 237 櫻の広場; No. 2378 南斜面
→	カモガヤ No. 1223 フットサル場
	カモジグサ No. 2375 桜美林幼稚園の東; No. 3098 赤説館の北
	ギョウギシバ No. 246 赤説館の北; No. 1222 学バス乗り場
	キンエノコロ No. 2892 南斜面の南
	ケチチミザサ No. 402 待望館と更賜体育館の間
	ケナシチガヤ No. 2258 待望館の西
→	コイチコツナギ No. 735 南斜面
→	コスズメガヤ No. 1690 学而館の東
→	コスカグサ No. 251 更賜体育館の南; No. 1224 フットサル場; No. 2745 桜グラウンドの東
→	コネズミガヤ No. 2880 トンネルの南側
→	コソソウ No. 2356 メイングラウンの東
	コバナグサ No. 2919 南斜面
	コメヒシバ No. 121 生協南
	ササガヤ No. 2916 赤説館北
	☆ シバ No. 95 図書館の北; No. 326 櫻の広場
→	シマズズメノヒエ No. 2591 フットサル場の西
→	ジュスママ No. 3369 備蓄倉庫の北
	ススキ No. 2825 赤説館北
	スズメノカタビラ No. 208 其中館・同窓会の西
	スズメノヒエ No. 352 其中館の東; No. 738 南斜面
	チカラシバ No. 2920 南斜面
	トダシバ No. 2893 研究棟D棟の西
	トボシガラ No. 127 南斜面
	ナガバグサ No. 2268 以徳館の南東
→	ナギナタガヤ No. 234 櫻の広場
	ニフホコリ No. 2695 徳望館の西
	ヌカキビ No. 401 待望館と更賜体育館の間
	ヌカボ No. 209 其中館・同窓会の西
	ネズミノオ No. 2696 徳望館の北東
→	ネズミムギ No. 2371 フットサル場
	ヒエガエリ No. 242 更賜体育館の南
→	ヒゲナガスズメノチャヒキ No. 193 理学館の東
	ヒメアシボン No. 93 メディア棟の東
	ヒメヌビエ No. 3332 ハンドボールコート
→	ヒメコソソウ No. 223 櫻の広場; No. 2372 フットサル場
	フシゲチガヤ No. 2365 赤説館北
→	ホンムギ No. 1258 フットサル場
	ミノイチゴツナギ No. 2191 南斜面; No. 2254 学而館の南
	メヒシバ No. 87 南斜面
→	メリケンカルカヤ No. 1465 南斜面
	タケニグサ No. 343 学而館の北
→	ナガミヒナグシ No. 2186 桜美林幼稚園の東
	ムラサキケマン No. 2199 桜美林高校の東

ケシ科	→
アケビ科	→
ツツラフジ科	→
メキ科	☆ ナンテン No. 2415 生協の南
キンポウゲ科	☆ ヒイラギナンテン No. 2250 学而館の西
	アキカラマツ No. 3331 ゴルフ練習場と南斜面の間
	クキツネノボタン No. 2262 徳望館の北東
	コボタンツル No. 3317 南斜面
	センニンソウ No. 2820 南斜面
ツゲ科	☆ フックソウ No. 2240 理学館の南
マツサ科	☆ ベニバナトキワマンサク No. 2241 理学館の西
カンザク科	☆ カツラ No. 2363 学而館の東
ペンケイウ科	☆ コモチマンネングサ No. 232 櫻の広場; No. 3236 南斜面
ブドウ科	☆ エビツル No. 2822 研究棟A棟の西
	ツタ No. 2657 研究棟D棟の北
	ノブドウ No. 2826 学而館の南
	ヤブカラシ No. 387 崇貞館の北
マメ科	→ アレチヌスピトハギ No. 2130 赤説館の北; No. 2809 メイングラウンド
	☆ エニシダ No. 2424 荊冠堂の西
	カスマグサ No. 2245 サレンバーガー館の南西
	クス No. 527 南斜面
→	コメツツメクサ No. 203 櫻の広場; No. 2182 学而館の南; No. 3542 栄光館の南
→	シロツメクサ No. 227 櫻の広場
	スズメノエンドウ No. 2269 荊冠堂の南
	ツルマメ No. 740 南斜面
	ナンテンハギ No. 2918 南斜面の西
	ネコハギ No. 2878 サレンバーガー館の南
	ネムノキ No. 2921 南斜面
	ノサザグ No. 2866 崇貞館の南
	☆ ハナズオウ No. 4351 研究棟A棟の北
→	ハリエンジュ No. 3268 桜グラウンドの南
→	フジ No. 2594 メディア棟の南
	ミヤコグサ No. 247 赤説館の北
→	ムラサキツメクサ No. 2377 南斜面
	メドハギ No. 2891 南斜面
	ヤハズエンドウ No. 182 更賜体育館の南
	ヤハズソウ No. 2876 サレンバーガー館の南西
	ヤブマメ No. 2879 サレンバーガー館の北
バラ科	☆ アーモンド No. 2422 荊冠堂の西
	☆ ウメ No. 2428 テニスコート of the 北
	☆ エドヒガン No. 2355 崇貞館の南
	☆ オオシマザクラ No. 189 メディア棟の東
	☆ カスミザクラ x オオヤマザクラ No. 451 南斜面
	☆ カナメチ No. 2905 生協の南
	☆ カラミザクラ No. 775; No. 3027 学而館の南
	☆ カワツツクラ No. 777 碩学館東; No. 4112 桜グラウンドの南
	クサイチゴ No. 448 南斜面
	クサボケ No. 2188 テニスコート of the 東
	☆ サトザクラ No. 2197 南斜面
	☆ ソメイシロ No. 188 同窓会の西
→	トキワサンザシ No. 2928 研究棟D棟の東
→	ナナカマド No. 3338 桜グラウンドの東南
	ナフシロイチゴ No. 216 更賜体育館の南
	ニガイチゴ No. 3234 アグリアクション倉庫の北
	ノバラ No. 243 更賜体育館の南
☆	ピフ No. 2938 其中館
☆	ヘビイチゴ No. 2195 南斜面
☆	モモ No. 2414 待望館の東
☆	ヤマザクラ No. 3525 更賜体育館の南

	☆ ヤマブキ No. 2251 学而館の西
	☆ ユキヤナギ No. 2346 図書館の北
グミ科	ナツグミ No. 447 南斜面の南; No. 3038 桜美林幼稚園の北
クロウメモドキ科	☆ ナツメ No. 2613 図書館の北
ニレ科	☆ ケヤキ No. 446 メディア棟の南
アサ科	☆ エノキ No. 2426 フットサル場の南
	カナムグラ No. 2883 南斜面の西
クワ科	☆ イチジク No. 2896 荊冠堂の北
	クワクサ No. 354 明々館の東
	ヤマグワ No. 2915 桜グラウンドの東
	カラムシ No. 528; No. 2469 桜美林幼稚園の東
イラクサ科	☆ アラクシ No. 2907 学而館の南
フナ科	☆ クヌギ No. 2198 南斜面
	クリ No. 2662 南斜面の南
	コナラ No. 449 南斜面; No. 1062 南斜面の南
	☆ シラカシ No. 2787 又賜体育館の東
	☆ スタジイ No. 1677 其中館の西; No. 2274 碩学館の西
	☆ マテバシイ No. 2413 更賜体育館の北
ヤマモモ科	☆ ヤマモモ No. 2425 理学館の北
カバノキ科	☆ イヌシテ No. 2908 学而館の南
ウリ科	☆ アマチャツル No. 737 南斜面
	☆ カラスウリ No. 2663 桜美林幼稚園の東
ニシキギ科	☆ ニシキギ No. 2242 サレンバーガー館の西
	☆ マユミ No. 248 赤説館の南
カタバミ科	☆ イモカタバミ No. 2260 赤説館の南; No. 2367 赤説館の北
→	オウチカタバミ No. 204 理学館の東
	カタバミ No. 217 更賜体育館の南
オトギリソウ科	☆ キンシバイ No. 2361 学而館の南
	☆ セイヨウキンシバイ No. 2360 一粒館と学而館の間
スミレ科	→ アメリカスミレサイジン No. 443 南斜面の西
	スミレ No. 184 櫻の広場
	タチツボスミレ No. 194 サレンバーガー館の西
	ノジスミレ No. 444 南斜面
	ヒメスミレ No. 3524 待望館と更賜体育館の間
	イギリス No. 3949 更賜体育館の西
ヤナギ科	☆ シダレヤナギ No. 198 一粒館の南; No. 450 南斜面
	☆ ポプラ No. 2894 荊冠堂の北
トウダイグサ科	☆ エノキグサ No. 350 櫻の広場
→	オオニシキソウ No. 2693 理学館の北
→	コニシソウ No. 347 櫻の広場
ミカンソウ科	☆ コミカンソウ No. 344; No. 357 櫻の広場
→	ナガエコミカンソウ No. 2789 学而館の南; No. 2929 研究棟D棟の東
	ヒメミカンソウ No. 3319 其中館の東
フウロソウ科	→ アメリカフウロ No. 239 櫻の広場
ミソハギ科	☆ サクロ No. 2423 荊冠堂の西
	☆ サルスベリ No. 2698 栄光館の東
アカバナ科	→ アカバナウグウショウ No. 231 荊冠堂の南
→	コマツヨイグサ No. 361 其中館の東
→	マツヨイグサ No. 2370 徳望館の西
→	メマツヨイグサ No. 360 櫻の広場
ウルシ科	☆ カイノキ No. 2885 南斜面
ムクロジ科	☆ イロハモミジ No. 187 更賜体育館の西
	☆ トチノキ No. 2347 学而館の南
ミカン科	☆ カラスザンショウ No. 3235 南斜面
	☆ サンショウ No. 2653 南斜面
	☆ シクウシャー No. 4148 宮塔棟の西
	☆ ユズ No. 2595 更賜体育館の西
→	センダン No. 2380 ゴルフ練習場の南
→	☆ カラスノゴマ No. 2817 理学館の北
センダン科	☆ ムクゲ No. 2593 南斜面
アオイ科	☆ ミツマタ No. 2146 学而館の西
ジソウ科	☆ イヌガラシ No. 249 其中館の東
アブラナ科	→ ショカツサイ No. 3030 南斜面
	☆ スカシタゴボウ No. 322 理学館の東
	☆ タネツケバナ No. 2183 図書館の北
	☆ ナズナ No. 212 更賜体育館の南
→	マメグンバイナズナ No. 2376 桜美林幼稚園の東
→	ミチタネツケバナ No. 441 桜美林幼稚園の南; No. 2145 学バス乗り場
	☆ ヤマハタザオ No. 736 南斜面
	☆ カナヒキソウ No. 2471 南斜面
ビャクダン科	→ アレチギンギン No. 937 生協の南
タデ科	→ イタドリ No. 388 崇貞館の北; No. 394 赤説館北の駐輪場
	→ イヌタデ No. 355 櫻の広場
	→ エノギギンギン No. 346 櫻の広場
	☆ オオイヌタデ No. 3445 桜グラウンドの東南
	☆ サナエタデ No. 384 其中館の東
	☆ スイバ No. 2252 学而館の南
→	ナガバギギンギン No. 3232 理学館の北
→	ヒメツルソバ No. 1085 徳望館の西; No. 2906 学而館の南
	☆ ママコノシリヌグイ No. 3316 南斜面
	☆ ミズヒキ No. 2652 南斜面
	☆ ミチヤナギ No. 2944 明々館の南東
	☆ イヌコハコベ No. 1729 栄光館の西
ナデシコ科	→ ウシハコベ No. 2192 南斜面
→	オランダミミナグサ No. 320 理学館の東; No. 2148 明々館の東
→	コハコベ No. 215 更賜体育館の南
	ツメクサ No. 210 其中館・同窓会の西
	☆ ノミノツツリ No. 195 太平館の東
	☆ ミミナグサ No. 317 更賜体育館の南
→	ムシトリナデシコ No. 3295 桜グラウンドの南東
ヒユ科	→ アリタソウ No. 385 其中館の東
→	シロザ No. 3452 南斜面の南

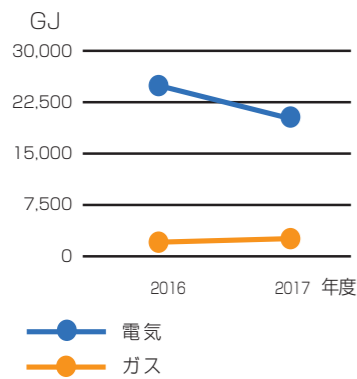
INPUT

(資源の消費)

エネルギー消費量



PFCと多摩アカデミーヒルズ

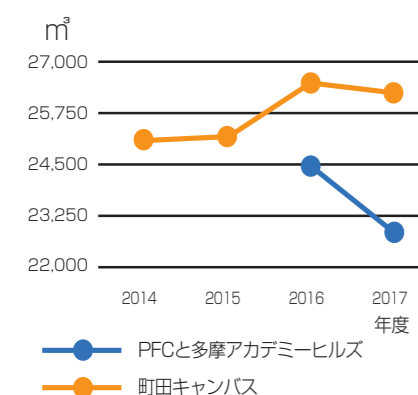


(注) 電気、ガス、重油の使用量はそれぞれkwh、m³、Lで表されます。これを比較するために、エネルギーの単位である「GJ(ギガジュール)」に換算しています。換算係数は、電気(昼)：9.97GJ/kwh、電気(夜)：9.28GJ/kwh、ガス：45.0GJ/千m³、重油：39.1GJ/KLです。なお町田キャンパスの電気は特定規範電気事業者(PPS)の電気の換算係数です。

町田キャンパスにおける2017年度のエネルギー消費量は7,0152.1GJ(注)でした。2016年から町田キャンパスの学生数が増えたため、各エネルギー消費量は増えました。2017年度になり、電気の消費者以外のエネルギー消費量は安定するようになりました。電気の使用量は0.2%ぐらい伸びた原因は2017年気温の変化が激しいことが大きな理由と考えられます。

また、2017年PFC(主にグローバルコミュニケーション学群が使用)及び多摩アカデミーヒルズ(主にビジネスマネジメント学群フライト・オペレーションが使用)電気の使用量は2016年より約13%減った。ガスの使用量は2016年と比べると約16%増えた。その原因はPFCと多摩アカデミーヒルズのエアコンは電気からガスに変わったと考えられます。

水使用量



2017年度町田キャンパスの水使用量は26,220m³でした。2016年から新しく加えてPFCと多摩アカデミーヒルズ2017年度の水使用量は22808m³でした。2016年と2017年水使用量の増減は学生数の増減が原因と考えられる。

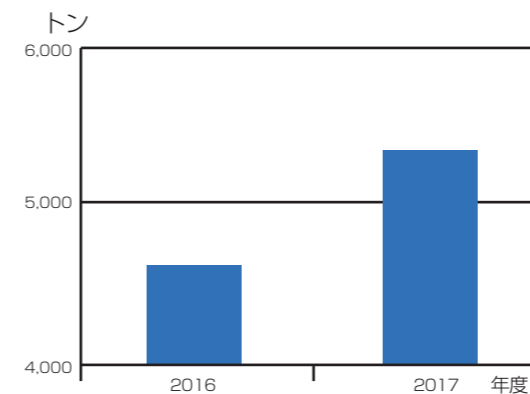
桜美林大学では、雨水や地下水を利用し、水使用量の削減に取り組んでいます。荊冠館と理化学館では雨水を貯めてトイレの洗浄用水、消火栓として利用しています。また明々館・太平洋館・崇貞館では地下水を汲み上げて、トイレや雑用水(掃除など)に利用しています。

OUTPUT

(環境への排出)

CO₂排出量

	2016年度消費量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量(トン)	
施設	電気(JXエネルギー)	7,462kwh	0.491 CO ₂ - ton/kWh	3,664
	電気(東京電力)	112kwh	0.486 CO ₂ - ton/kWh	44
	都市ガス	405千m ³	2.24 CO ₂ - ton/千m ³	909
	LPガス	3.0ton	3.00 CO ₂ - ton/ton	9
	重油(L)	21.0kL	2.71 CO ₂ - ton/kL	57
	灯油(L)	4.0kL	2.49 CO ₂ - ton/kL	10
	蒸気(GJ)	8,702GJ	0.0570 CO ₂ - ton/千GJ	675
	施設計			5,378
スクールバス燃料	149kL	2.58 CO ₂ - ton/kL	385	
合計			11,141	



2017年度の大学全体のCO₂排出量は、11,141トンでした。前年度の5,005トンと比較して、残念ながら増加してしまいました。CO₂排出量が増加した要因として、CO₂排出係数が大きかったことが考えられます。一昨年まで、昭和シェルだった電気がJXエネルギーの電気になりました。さらに、昨年はJXエネルギーのCO₂排出係数が大きかったため、CO₂排出量が増大したと考えられます。また、昨年の夏は例年と比較して暑かったため、冷房の利用が増えたこともCO₂排出量増加の原因として考えられます。

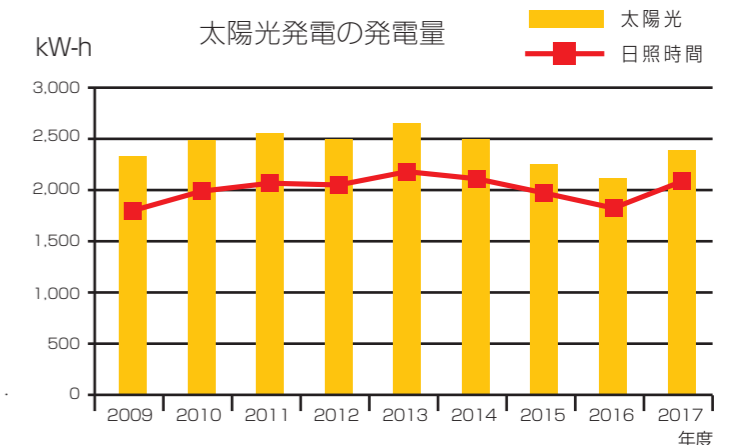
スクールバスは、一昨年度のCO₂排出量379トンより増加しましたが、これは学生数の増加に伴うものだと考えられます。

2017年度版環境報告書の訂正

2017年度版に記載されていた、2016年度の都市ガスの項目に誤りがありました。消費量が433千m³、CO₂排出量が972トンとなっておりますが、正しくは消費量が364千m³、CO₂排出量が815トンでした。したがって、合計CO₂排出量が5,005トンではなく、4,848トンとなります。

太陽光発電

一粒館屋上に太陽光発電が設置されています。2017年(1月～12月)の太陽光発電量(年積算値)は2375.1kWhで、これは1世帯当たりの年間電力消費量(2015年)のおよそ8割に相当します。日照時間は、アメダス観測点府中の年平均日照時間を用いています。太陽光発電量は、日照時間と密接な関係にあることがわかります。



出所) 坪田幸政、2018年、「町田キャンパスの気象2017」、桜美林論考「自然科学・総合科学研究」電気事業連合会、世帯あたり年間電力消費量、247.8kWh(2015年)

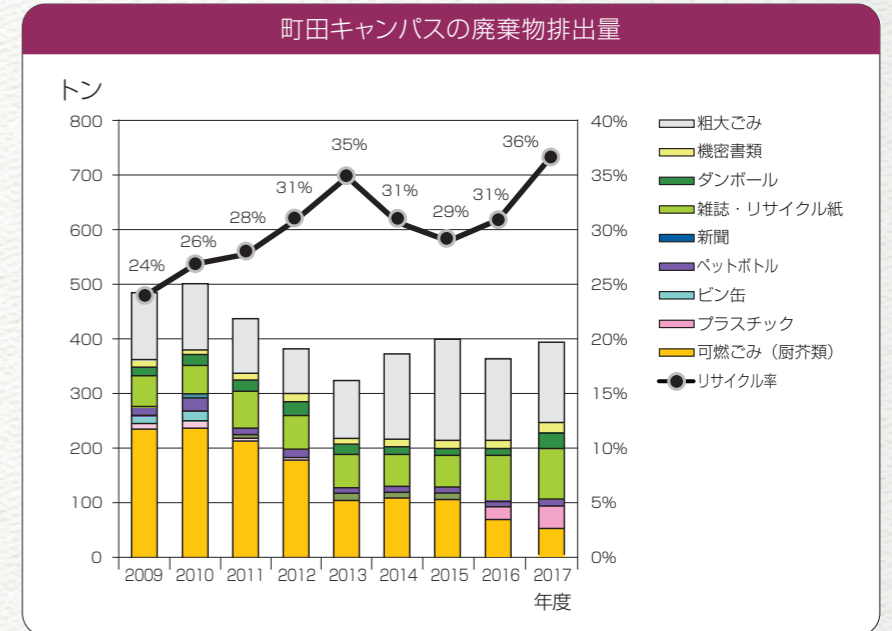
町田キャンパスのごみ分別について



町田キャンパス2017年度のごみ排出量とリサイクル率

2017年度町田キャンパスの廃棄物排出量は、391.56トンでした。そして、リサイクル率は36%で過去最高でした。廃棄物の量は前年度と比較して増加してしまいましたが、これは学生数の増加などが要因として考えられます。

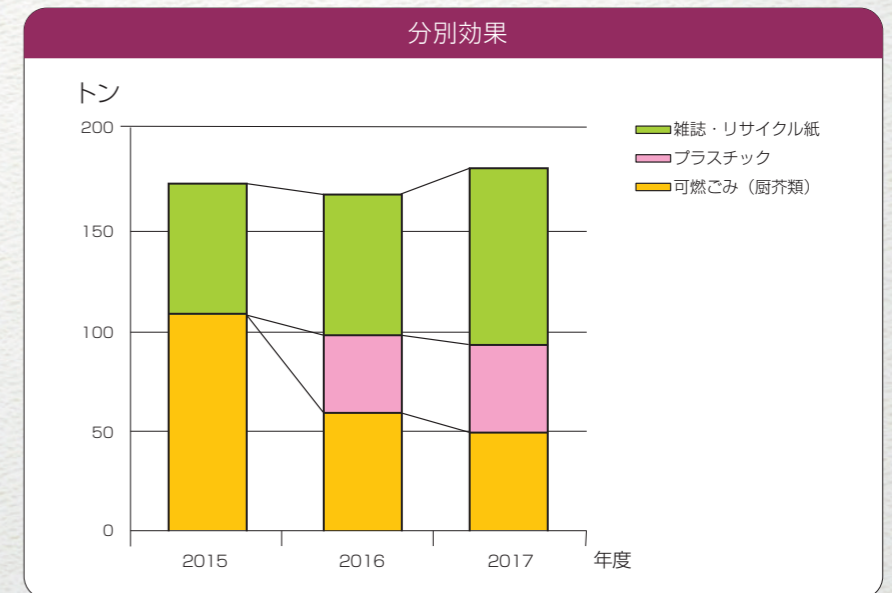
廃棄物排出量が増加してしまいましたが、リサイクルされるごみ（機密書類・段ボール・雑誌・リサイクル紙・新聞・ペットボトル・ビン缶）の総量も増加していることから、リサイクルが定着してきたことが考えられます。



町田キャンパス2017年度のごみ分別について

2017年度は、ごみ排出量が増加してしまいましたが、可燃ごみの割合が減少しています。昨年度の雑誌・リサイクル紙：42%、プラスチック：22%、可燃ごみ：36%にたいして、今年度は雑誌・リサイクル紙：47%、プラスチック：25%、可燃ごみ：28%でした。

分別の割合から、可燃ごみとして捨てられていたものが、適切にリサイクルされるようになったのではないかと考えられます。



桜美林大学での環境の学び



エコプロダクツ2017にて



ECO-TOP合同都庁発表会にて



ECO-TOPプログラム

ECO-TOPプログラムとは?

ECO-TOPプログラムとは、東京都が2007年度から設けている、「自然環境に軸足を置いたジェネラリスト」を育成する人材育成・認証制度です。桜美林大学では、2009年度に都の認定を受け、2010年度よりプログラムがスタートしました。

桜美林大学の学生であれば誰でもECO-TOPプログラムに登録することができ、所定の科目(インターンシップを含む)を履修して単位を取得すれば卒業と同時に東京都より知事名の修了者登録証が授与されます。修了者は卒業後も東京都からフォローアップがあります。

プログラムの特徴の1つは、自然科学だけでなく、社会科学・人文科学分野の科目の履修も義務付けられていることです。もう1つの特徴は、民間企業、NGO・NPO、行政における合計20日間のインターンシップを通じて、実務やフィールド調査を体験できることです。インターンシップの成果は、学内の報告会のほか、認定大学による合同報告会で発表されます。

桜美林大学におけるECO-TOPプログラムの主な内容

環境と文明、野外安全管理、救急救命演習、
動物学III、植物学III、生理学III、
自然理解(環境問題入門)、社会理解(環境の科学)、
環境法学、環境経済論、環境マネジメント論、
環境と地域、社会環境調査法、自然環境調査法、
環境とまちづくり、化学と人間社会、
江戸から学ぶ環境、環境NPO・NGO
ECO-TOPインターンシップIII、環境科学総合演習

桜美林大学ECO-TOPプログラムへのお問い合わせは
ecotop@obirin.ac.jpへ



ECO-TOPプログラム 卒業生の声

2017年度修了生 藤森 貴明

ECO-TOPプログラムを続けて「環境」という1つのテーマのもとで身体を通じてじっくり学べる点が良かったです。

学び(インターン等のフィールドワーク)に自ら働きかけることで身の周りの環境を見つめ直すきっかけとなり、体験を相手に伝えることでより理解が深まると同時に、社会人に必要なスキル(コミュニケーション、アポイント等)を得ることができたからです。

社会人として学んだ知識を用い、現状を理解した上で多角的な視点から物事(当たり前を疑う、負荷を覚悟の上で何が得策か等)を考察し、自信を持って提案していきたいと思います。

2017年度修了生 清水 真衣

自分の考えや意見を他人に分かりやすく述べる練習が多くあることが良かったです。環境を軸足にしていても、専門分野は多岐にわたるので、自分の専門外の人に分かりやすく述べる必要があります。それを学内・都庁発表会等を通して身につけることができました。

また、インターンシップを通して、修士号や博士号が採用に必要な業種があることに気がきました。企業によっては採用の際に修士号等を考慮するところもあります。実際に企業、行政やNPOで職種体験することでそれぞれの違いが見え、進路を考えるうえで良い判断材料になりました。ECOTOPプログラムを通して、年間単位の計画性も身につけることができました。

ECO-TOPプログラムに登録した理由は何ですか?

- 自然環境保護に興味があるから(2年/男)
- NPO、企業、行政の3分野にインターンシップに行けるから(2年/女)
- ECO-TOPに沿って授業を取れば、満遍なく環境について学べると思ったから(2年/女)
- 将来、環境問題を題材にした新聞記事を書く記者になりたいため、環境の資格があれば仕事の幅が広がると考えたため(2年/男)
- ガールスカウトに所属していて、自然の体験などを子供たちに教える機械があるので、その点でも学びたいと思ったから(2年/女)
- 東京都から資格がもらえるから(3年/男)
- 環境学を学ぶ延長戦で深い学びを得たいから(3年/女)

ECO-TOPインターンシップを通して何を学ぶことができましたか?

- 企業研究ができ、行政・NPOそれぞれの違いや、行ってわかることなどインターンシップ事体が学びとなった(3年/女)
- 研修先の仕事分野に関する知識を得ることができた(3年/男)
- 自分の環境分野において興味がある所がわかり、その分野を今後学んでいくという目標ができた(3年/女)
- 学校の講義では知ることのできない企業の環境保全への取り組みを学んだ(3年/男)
- 4つの研修先を見ることで将来の方向性が決まりつつあった(3年/男)
- 社会の厳しさを学ぶことができた(3年/男)
- 環境を通して様々な分野の知識を知り、視野を広げることができた(4年/女)

今後、ECOTOPプログラムでの経験をどのように活かしていこうと思いますか?

- 貴重な体験が多かったため、身につけたものをしっかりと語れるようになりたい(3年/男)
- たくさんの発表する機会を通して、学んだことを相手にわかりやすく伝える能力が身についたためそれを活かしたい(4年/女)
- 環境に関わる仕事やワークショップがあったとき、自分が知っている情報を積極的に出したり活用して役立てたい(4年/男)
- 生活のあらゆることが環境とつながっていることを意識し環境問題を考えていこうと思う(4年/女)
- 就職先での事業に活かしたい(4年/女)

ECO-TOP合同都庁発表会にて



【授業紹介】

サービ斯拉ーニング科目

サービ斯拉ーニング科目とは、「大学での授業」と「フィールドでの活動」を両輪にして動く学習であり、教室での授業の他に、授業に連動する様々なボランティア活動等のフィールドワークをする科目です。その中には、環境に関連している内容を持つ科目も、いくつか設けられています。今回は、発展途上国の現場で、実践的な活動を含んだ研修を行う「国際協力フィールドワーク（フィリピン）」を紹介します。

授業名：国際協力フィールドワーク フィリピン

担当教員 伊賀野 千里

授業の概要

事前学習、現地研修、事後学習、発展研究論文執筆という構成で実施しています。フィリピンは、近年経済発展が進む一方で、貧困問題や、特に都市部の環境問題等が大きな課題となっています。こうした中、同国では、政府、NPO/NGO、国際ドナー等が地域住民と協力して問題解決のため様々な行動、活動を行っています。本授業のフィリピン現地研修では、現地の貧困問題に取り組むNPO/NGOの活動に参加します。都市部のストリートチルドレン、高齢者、障がいを持つ方々の保護施設での活動やスモークマウンテンと呼ばれるゴミ山があった地域でのホームステイを通し、自らの五感を使って、また現地の方々と触れ合うことを通して、自分ができる国際協力とは何か、開発とはどうあるべきか、を考えます。帰国後の事後学習では、報告書を作成し、報告会を行います。更に、本研修での学びを深めるべく、教員の指導の下、課題を設定し論文に取りまとめます。現地研修の学びを言語化することで、今後の行動に結びつけます。



担当教員の伊賀野先生

授業を通して学生に伝えたいこと

途上国の問題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、考え、行動するきっかけとしてもらえたらと思います。

この授業の現地研修では、フィリピン都市部の貧困地域に暮らす人々と共に過ごし、語り合うことを大切にしています。「途上国の人はかわいそう」「何かをしてあげたい」という気持ちで、この授業を履修する学生が多いのですが、フィリピンでの現地研修後は「フィリピンの人から家族や身近な人を大切にすること、愛することを学んだ」や「何かをしてあげたいではなく、彼らと一緒に問題解決に取り組める人になりたいと思うようになった」と意識の変化が表れる学生が多数います。途上国の環境に身を置き、現地の人と交流する中で彼らから学び、「遠い国の貧困問題」を「自分の問題」として考え、行動する手がかりを掴んでもらいたいと考えています。



その他のフィールドワーク授業

国際協力フィールドワーク（インド）

（秋学期/2単位/担当教員：加藤 俊伸）

国際協力フィールドワーク（日本）

（秋学期/2単位/担当教員：牧田 東一）

国際協力フィールドワーク in フィリピン

授業を履修した学生の感想

現地研修では、フィリピンが抱える問題を自分の五感で感じ、学ぶことができました。事前学習でも学びましたが、特に宗教、歴史的背景が現代の問題に深く関わっていることが現地へ行くことでより深く理解できました。実際に現地へ行き人々とふれあい、その人たちの立場となることで見えてくるものがたくさんあります。この授業では、物事を多方面から学び、自分たちで考えることがとても多く、一生に残る素晴らしい経験をする事ができました。（LA学群2年女子）



私が一番考えさせられたことは、フィリピンの歴史と貧困の問題です。約300年間という長いスペインによる統治がどれだけフィリピンに影響を与えているのか現地に行って理解することができました。フィリピンはアジアの国でありながら、文化も人の考えも価値観も他のアジアの国々とは異なります。もし他の国の統治がなかったら、今とは全く違ったフィリピンなのだろうと感じました。（BM学群4年女子）



事前にフィリピンは家族を大切にす文化だと学んでいましたが、ホストマザーの子どもたちに対する思いが強く、愛にあふれていると感じました。「生活が貧しいから可哀そう」ではなく、それよりも大切なことがあることを学び、自分の生活や考え方を直すきっかけになりました。（LA学群3年女子）



Philippines

桜美林大学のゼミ紹介

桜美林大学には環境に関連する活動をするゼミが多数あります。今回はそのうち2つのゼミに、どのような取り組みをしているのかを、インタビューしました。

坪田ゼミ

先生がゼミ生に期待すること/ゼミで意識していること

私たち坪田ゼミは、気象学を扱っています。今年は、気象予報士試験の勉強をみんなでして、学科試験、専門試験、実技試験の中で1つでも合格することを目標としました。合格率が約5%と非常に難関の試験なので、今夏の気象予報士試験は、苦戦しましたが、反省点を活かし、合格のために日々勉強に励んでいます。また、毎週雲の写真を撮り、今週の雲として毎週水曜日のゼミで発表をしています。卒業研究では、関東地方の雪について、湿度、地上気温、上空気温など、気象庁の過去のデータから関東地方ではどのような雪質で大雪が降っているのかを雪水比を出しながら考察しています。天気予報では、気象庁が適中率を上げることに苦戦している分野であるため、非常に難しい研究テーマですが、これに負けずに日々データを見て、Excelで雪水比と気温の関係の散布図を作るなど、日々励んでいます。



コツコツと積み上げることでか。今年は異例的に資格試験（気象予報士）の勉強をゼミでやっていますが、気象予報士の資格試験は合格率5%前後とされているので、根気よくコツコツ積み上げて勉強しないと受かりません。また、ゼミでは基本的には学生に自分でテーマに決めてもらっているので、学生と一緒に勉強することを意識しています。

大学での学びは教員と学生と一緒に勉強することだと思っています。小中高までは知っていることを教えるという形ですが、大学では今までのものを発展させて新しいことをしようということなので、共に勉強することが大事だと思います。

藤川ゼミ

先生がゼミ生に期待すること

藤川ゼミは環境学とともに社会学も学んでいるゼミです。今年のゼミ生（3年生）は社会学を専攻している学生が多いです。アンパイアについて・ラノベの世界について・人工物と自然の融合についての都市計画・サッカー小学生の指導などのテーマを扱っていて、環境学専攻は少ないです。ゼミでは基本的には個人のテーマに対して自身で調査し、それについてディスカッションをするときもあります。また、みんなで一つの論文や本を読んでもらい、みんなで突っ込みを入れてもらうこともしています。そうすることによって、“みんなで話することができる癖”をつけることが大切であると思っています。今の4年生は、3年生の時に「大学生の意識」に関して自分たちのテーマに関連したアンケートをSPSSというソフトを使い、みんなで作ったりしました。

ゼミの雰囲気としては気ままに穏やかに学ぶことができるという感じです。そのような中で、社会学を学ぶには“勘どころ”が重要なので、それを磨くことを意識しています。

ゼミ生に限ることではないですが、学士力を身につけることが大切であると考えています。自分で観察したことや取ったデータなどを活かすことが学士力では重要になってきます。これは小中高では学ぶことができない内容です。いい調査のためには“勘”が大切ですが、そのためには自分が常にアンテナを張っていないと勘を磨くことができません。なので、今後も“勘”を磨いて、世の中を観察する目を持ってほしいと思っています。それがあれば世の中の中の人の流れに流されないと思います。



サークル活動



アグリアクション

Q. どのようなサークルですか？

大学の畑で野菜を栽培しています。代表・副代表4人をはじめとして、約20人が入っています。大学祭を機に代替わりするので、4年生の活動は任意となっています。



アグリベラル・マルシェ

主に明々館1階で野菜を売っています。「農のそばへ一歩」というキーワードをもとに、ただ野菜を売るのではなく、農家さんに直接来てもらい、生産者と消費者が話し合える場づくりに努めています。

Q. 今までどのような活動をしてきましたか？

毎年学期ごとに活動時間を変えています。メンバーの空きコマで活動予定を立てています。今年は、夏野菜（トマト、ナス、キュウリ、ゴーヤ、唐辛子）、しし唐、ブルーベリー、しそ、さつまいもを育てています。さつまいもは大学祭で、芋けんぴやサツマイモチップスなどに加工して販売したり、直売もしています。

2018年5月にけやき広場に羊を呼びました。広告的な意味があり、連れてきました。6月には母の日に大切な人へのメッセージを対価に野菜を交換するイベントも行いました。

Q. これからの活動予定について教えてください。

農地の場所が変わったり、学群のキャンパス移動があったりと不安な面もあります。その中でやってみたいこととして、珍しい野菜を育ててみたいです。また、6月に調布の「山内ぶどう園」で援農をしたので、今後も定期的につながりを持ちたいと思っています。

金銭的な価値以外の対価での活動にシフトしていきたいと思っています。学生は103万円の壁に問題を抱えていて、食生活を崩してまで遊んでいます。その気持ちもわかるのですが、健康あっての日常だと思っているので、この問題をアグリベラル・マルシェで解決していきたいと思っています。

Q. 一言お願いします。

大学生になって、鍬や耕運機を動かす事、自分の野菜を加工して販売することなど、普段できない貴重な体験ができるので、暇つぶし感覚で是非来てください。



食べなければ死んでしまう私たちが、食について蔑ろにするのはよくないです。もっとさかのぼれば、農を蔑ろにするのもよくないです。外部化されているんです私たちの生活は。その中で外部化されている体験の一部を感じ取れる、アグリベラル・マルシェの活動に参加してもらいたいです。

2017年度版を**読**んでみて

キャリア開発センター部長 上坂 孝博さん

『環境報告書』を拝見し、桜美林大学のエコキャンパスに向けた現状と取り組みや学生や教職員の環境活動状況が良く理解できました。

私は、施設・管理部在職中に桜カフェに設置した生ゴミ処理機、地下水利用システムや紙のリサイクル等に業務を通じエコ活動に取り組みましたが、現在のエコ活動はゴミの分別等をはじめとする多岐にわたる取り組みには頭が下がります。

また、「環境の学び」として私が教務課在任時代の2009年度に自然環境保全のジェネラリストとなる人材を育成することを目的とし、東京都「ECO-TOPプログラム」へ課程認定申請をしました。申請に際しては片谷先生をはじめ自然科学の先生方のご協力により無事認定されました。

他大学に比べ本学では当プログラムの登録学生は多いと聞いております。これは、環境に対する意識の高さの表れ

であり、申請した当時の担当課長として大変嬉しく思います。今後も「環境への学び」を通じ全学をあげてのエコ活動の更なる活性化に期待しています。今後も「環境への学び」を通じ全学をあげてのエコ活動の更なる活性化に期待しています。



株式会社 日立製作所 システム&サービスビジネス統括本部 環境推進本部 白見 元恵

日立では7年前よりECO-TOPプログラムに協力して環境部門で学生を受け入れています。研修後に大学で行われる報告会では先生方の厳しいご指導があるものの、学生さんたちは伸び伸びと個性を発揮して発表されていました。そこから先生方と学生さんたちの間にある信頼関係が感じられ、私は研修内容の反省に加え、学生への指導の姿勢についても学ばせていただいています。

そのため、環境報告書は最初にECO-TOPプログラムの項に注目しました。2・3年生、4年生と卒業生、それぞれの状況での意見が整理され、何れも研修への期待が大きいことが伝わってきました。

次にキャンパスマップでは、建物が数多く配置されていますが、実際訪れてみると広々として、空の高さも感じます。緑豊かで風通しが良いキャンパスの情景は心にゆとりと潤いをもたらしてくれ、同時にやる気も湧いてきます。

現実的には大学の拡大により、省エネルギー法等への対応

などで苦労があると思いますが、電気使用量を見える化するなど随所の施策により、学生への意識付けに効果があると感じました。

表紙にある研究目的の「大気環境ステーション」からも、リアルタイムの空模様と直近の観測データがインターネットで公開されており、日常、実務と研究の3面から学ぶ機会が提供されていました。最後にSDGsとゼミの研究との関係性など、社会の動向にも敏感に対応されていることがわかりました。2018年度の報告書も楽しみです。



自然理解（環境問題入門）・
専攻入門（環境学）環境関連の
授業科目を履修している学生に、

感想を
書いてもらいました。



学生による新分別の取り組みの様子や環境報告書に学生が携わっていることがとても興味引かれるのに続き、学生活動もわかり良いと思った。環境報告書自体が広まっておらず、認知がされていないことが、とても残念な点だと感じた。学生も取り組んでいるのだからエコ活動を推進していく中でもっと広めてほしい。と思った。（3年男子）

生徒や地域に密着した報告書で、桜美林の多彩な取り組みがよくわかります。（1年女子）

この大学は最初ごみの分別が厳しいなと思ったが、リサイクルできるものがとてもあることを学び、少しでもリサイクルするために分別しているのかと理解できた。（1年男子）

学校の取り組みをよく整理して、表やデータを活用し、とても見やすく工夫されていると感じ、好印象である。この報告書自体にも環境ラベルがある点が良い。（2年男子）

社会貢献の部分では毎年「境川クリーンアップ作戦」がのっている。もう一つくらい社会貢献が増えると良い気がする。（4年男子）

写真やグラフが多いため、理解が深めやすかった。また、取り組み内容や方針が具体的であり、ポイントをまとめられていていいと思う。小学生～高校生を対象にしたイベントを開催していて、若い世代に環境に関心を持ってもらおうとする活動は良いと思う。（2年男子）

グリーンキャンパスプログラムの存在をはじめ知り、おもしろいと思った。この活用によって実際にどのような効果があるのかが詳しく書かれていると、現在より関心を持つ人が増えると思った。SDGsに貢献しているゼミが紹介されているのが良いと思った。（2年女子）

大学全体の写真を使い、どこでどのようなエコ活動をしているのが紹介されていてわかりやすかったです。私自身、境川クリーンアップ作戦に昨年参加していたので、報告書に載っていて嬉しいです。（2年男子）

私が入学した時は、当たり前のようになっていた桜美林大学のごみの分別システムが、2017年4月から新しく導入されたもので、ごみの削減に成功したということを知り初めてした。環境問題に真剣に取り組む、かわり続けていくことは素晴らしいと思う。（1年女子）

ごみ分別に厳しいことは聞いていたが、しっかり分別する人がいて、自分も分別回収に協力しようと思った。また、桜美林大学のボランティアで初めて知る活動が載っていて、大学全体に子ことを伝えるべきだと思った。（2年男子）

防災MAP

自然災害に備えることも、環境への取り組みの1つです。本学では防災マップを作成し、折りたたんでポケット判として携行できるサイズに印刷し、全ての学生と教職員に配布しています。このページには、その掲載内容のダイジェスト版を紹介しています。

桜美林大学
J. F. OBERLIN

**災害対応
ポケットガイド**

大学ウェブサイト QR コード
(携帯電話・スマートフォン対応)

<http://www.obirin.ac.jp/>

- 災害時には大学ウェブサイトにて、大学からの連絡、臨時休校措置などの情報を伝えます
- 携帯端末機器が使用可能な場合は電池切れに注意して情報を収集するように努めましょう

大学への安否連絡

- 大規模災害が発生した場合、学生の安否確認を行います
- 災害発生時に登校していない場合、状況が落ち着いたら、大学へ安否連絡してください
- 学籍番号・氏名、現在の場所、被災状況、困っていることなどを連絡してください

電話：042-797-2661
(桜美林大学 代表)

e-Mail 連絡先：
anpi@obirin.ac.jp

◆大学内では大規模災害時に「安否情報カード」を配付します
◆配付されたカードに記入し職員に渡してください
◆提出できずに帰宅してしまった場合などは必ず上記連絡先にe-Mailなどで連絡してください

◆本マニュアルはオピリンナーサイトに閲覧・印刷できます
ご家族にも事前にお伝えください

http://obiriner.obirin.ac.jp/m/campus_life_guide/emergency_disaster/index.html

大学にいるとき

地震が起きたら！

- 窓や棚、ガラスなどから離れる。蛍光灯、プロジェクターなどの落下物に注意
- 机の下などにもぐるか、バッグや衣類などで、頭を覆うなどして、頭部・手足を保護する
- 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確認する
- 実験中など火気使用時は身の安全を確認した上で、火を消す。また、薬品などから離れる
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいるときは、その場で頭部を保護し座り込み揺れがおさまるのを待つ

避難場所へ移動する判断基準

- ガラス、黒板、ロッカーなどが倒れるおそれなく、天井からの落下物や薬品の流出が無いと確認できた場合は、動かない方が安全である

通学中

- 周辺の状況に注意し、身の安全の確保を最優先する
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する
- その場の被害状況を正しく把握する
- 大学または自宅から近くの距離であれば、移動することを考える

最初の揺れがおさまったら

- パニックにならぬよう冷静に、落ち着く
- 建物の傾き、壁のひびきなどを確認
- 火災が起きていないか？可能な範囲で初期消火。困難な場合は、火から離れる
- 負傷者がいる場合は可能な範囲で応急手当をし教職員に報告。救護所（一粒館の保健衛生支援室に設置予定）で受診
- 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見る

あわてて外へ飛び出さない

- 火災の拡大、建物の倒壊、地盤の崩壊などの危険が迫ったとき、または構内放送や教職員の誘導があるときはそれに従って「けやきの広場」などに避難する
- 災害対策本部は栄光館に設置予定、その後の対応や情報等を説明予定

行動に移る際の注意点

- 火災の場合は煙を吸わないよう、タオルやハンカチなどで口を覆う
- どのルートで移動すれば安全か確認し、エレベーターは使わずに階段で移動
- 自宅・大学も遠い場合は、あわてて移動せずに、駅などで情報を得る
- ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、近くの避難場所に移動する
- 避難中は警察や消防の指示に従う

大地震が発生したら？

多くの方が帰宅困難に！

公共交通機関の運転中止
交通規制など激しい渋滞

台風や大雨等の災害でも帰宅困難になる可能性がある

むやみに移動せず状況確認

まず、自分の安全を確保
災害用伝言板などで安否を知らせる

帰宅は状況が落ち着いてから

多くの方が一斉に帰宅を始めると、道路や駅周辺では大混雑が発生し、大変危険な状況が発生する

- 災害時の歩行速度は時速2.5km、10kmの移動に4時間を要するといわれている
- 家族の状況が不明、連絡不通など、災害時の不安感を軽減させるためにも伝言サービスを利用する

相模原市、町田市、多摩市、立川市、西東京市、府中市、調布市、世田谷区、目黒区、品川区、大田区、目黒区、品川区、大田区、目黒区、品川区、大田区

桜美林大学

10km圏、20km圏、30km圏

災害時交通機関が不通となった場合、徒歩で帰宅する目安は10km程度と考える。日没以降の移動は避け、帰宅ルートと時間を慎重に検討する。

町田キャンパス避難図

あわてて外へ飛び出さない
火災の拡大、建物の倒壊などの危険が迫ったときに状況に応じて避難する

避難経路

各館 → 一次避難 → 二次避難 → 避

※二次避難は教職員の指示に従うこと

けやきの広場避難経路

各館 → 一次避難 → ※けやきの広場に一時的に避難した者は安全を確認した後、桜グラウンドに移動する → 二次避難 → 避

※保健室：保健衛生支援室

本学の校舎は東京消防庁から優良防火対象物の指定を受ける等安全面に最大限の注意を払って建設されています

社会貢献

境川クリーンアップ作戦

2017年7月30日に行われた、相模原市・町田市が後援する「境川クリーンアップ作戦」に本学からは、学生と教職員合計1,424人が参加しました。このイベントは、町田市と相模原市の間を流れる清掃活動を通して、咸鏡保全だけでなく、生活圏や経済圏を共有する町田～相模原の行政区分を超えた交流とまちづくりを目指した活動です。作戦当日は、生憎の雨でしたが各会場ごと、境川の美化に取り組まれました。この清掃活動を通して、本学がキャンパスを置く、町田・相模原両市の近隣自治会や参加団体の方々との交流が生まれました。



1,120kgのごみを回収しました！



編集後記

2017年度版に続き、2018年度版も編集委員をさせていただきました。昨年も担当した「ゼミ」・「サービスマーケティング科目」ページに加え、今年は「ECO-TOPプログラム」・「学内サークル」ページも担当しました。昨年よりも担当箇所が増えたため、編集やインタビューに苦戦しましたが、無事に作成することができてよかったです。ゼミやサークルのインタビューをしながら、環境について様々なアプローチの仕方があるということに改めて感じました。「環境」という一つの分野において、多様な活動をしているゼミ・サークルを紹介できたのではないかと思います。

今回、インタビューやアンケートにご協力いただいた、教職員及び学生の皆様ありがとうございました。



リベラルアーツ学群3年 金子 権孝



リベラルアーツ学群4年 本間 花乃子

執筆協力者
リベラルアーツ学群3年 芳野 玲
リベラルアーツ学群1年 案浦 旭帆
ビジネスマネジメント学群4年 呉 文睿

環境研究所所長メッセージ

毎年刊行しているこの環境報告書は、桜美林大学環境研究所のエコキャンパス活動の一環として作成しています。学内で実施している省エネ、ごみ分別等の環境負荷を下げるための取り組みのほか、関連する諸活動を紹介する内容となっています。なお今年度も、学生編集委員が作成に活躍してくれました。教育や人材育成の効果も、100%とは言えないまでも、上げることができたと考えております。

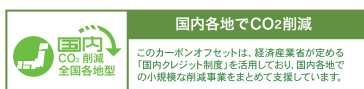
末筆となりまして恐縮ですが、本報告書の作成にご支援・ご協力をいただいた学内外の皆様方に対して、深く御礼を申し上げます。また、もし何かお気づきの点がありましたら、是非ご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

2019年3月
桜美林大学環境研究所長 片谷 教孝

J. F. Oberlin University

表紙の写真：学内に設置された大型分別ごみ箱

桜美林大学では2017年度からごみ分別方式を変更し、学内に写真のような大型の分別ごみ箱を設置しました。写真のタイプのほかに、やや小型のプラスチック製分別ごみ箱もあり、設置場所に余裕がない場合などに活躍しています。



この報告書は、FSC®認定紙とNON-VOCインキ、水なし印刷を使い、日本印刷産業連合認定「グリーンプリンティング工場」で作りました。製作に伴い1部あたり1,110gのCO₂を排出しましたが、国内クレジットを用いて、その全量をカーボンオフセットしています。

リサイクル適正 (A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2019年3月

編集：桜美林大学学長室

発行：桜美林大学環境報告書編集委員会

<http://www.obirin.ac.jp>

この環境報告書へのご意見をお寄せください

kanken@obirin.ac.jp